

2022年度

高校受験コース 中2保護者会資料

◆君がワンランクアップする◆

駿台流学習法

駿台 中学部



駿台中学部 高校受験コース 中2

2・3学期カリキュラム

教科	月	S pクラス	Sクラス/Aクラス
英語	9月	分詞の形容詞的用法／前置詞	不定詞／会話表現
	10月	現在完了形／現在完了進行形／過去完了形	第4文型の文／第5文型の文／受動態
	11月	接続詞	受動態／比較
	12月	間接疑問／関係代名詞	比較／名詞・代名詞
	1月	関係代名詞／関係副詞／関係詞のまとめ	助動詞と不定詞／現在完了
	2月	否定表現／語・句・節／文の種類／無生物主語	現在分詞と過去分詞／時制総合／会話表現
数学	9月	三平方の定理	平行線と角／合同
	10月	三平方の定理／円と角	合同／四角形
	11月	確率	四角形／平行線と面積／円
	12月	平面幾何	円
	1月	関数	相似
	2月	関数／空間幾何	相似／重要単元まとめ
国語	9月	詩／説明的文章／助動詞	
	10月	説明的文章／作文／文学的文章／助動詞	
	11月	古文／実戦問題演習／文学的文章／助動詞	
	12月	文学史／説明的文章／実戦問題演習／敬語	
	1月	短歌／俳句／古文／助詞	
	2月	文学的文章／説明的文章／語の識別	
理社 ※理科先行の場合		理科	社会
	9月	(生物) 消化と吸収	(歴史) 明治維新 自由民権運動と大日本帝国憲法 日清・日露戦争と産業の発達
	10月	(生物) 呼吸、血液の成分とはたらき 血液の循環と排出 刺激と反応	(地理) 関東地方／東北地方／北海道
	11月	(物理) 回路と電流・電圧 オームの法則	(歴史) 第一次世界大戦／第二次世界大戦
	12月	(物理) 電気とそのエネルギー／電流の正体 (物理) 電流が磁界から受ける力／電磁誘導	(総合) まとめ
	1月	(地学) 気象観測／空気中の水蒸気	(歴史) 民主化と国際社会への復帰 高度経済成長後の日本
	2月	(地学) 前線の通過と天気の変化 大気の動きと日本の天気	(総合) まとめ

◆君がワンランクアップする◆

駿台流学習法

★英語★

2年生では不定詞・受動態・比較・現在完了や分詞の形容詞的用法を学びますが、実はこの時期こそ、3年間の英語学習の中で最も重要な時期です。

その理由は、第一に1学期までと比べ内容が難しくなり、今後の学習状況によって学力差が大きくなっていく時期だからです。特に、「不定詞・動名詞」「比較」が、高校入試で最もよく問われる項目、すなわち、しっかり勉強した人には得点源となる項目です。ですから2学期は常に、「これが入試に直結するのだ」という意識を持って授業に臨んでください。さらに、「受動態」の文は日本語に訳すとおかしな文になる（例：宿題が昨夜ジャックによってされた）ことが多く、「現在完了」の文は、そもそも日本語にはない発想に則って考えることが多いため、苦手とする人が多い項目の代表です。そして、「分詞の形容詞的用法」に至っては、これと「進行形」や「受動態」とが区別できない生徒が多い項目で、この違いを文法的にきちんと説明できるようなら、2年生までの英語は自信を持っていいと言えるでしょう。加えて、ここで「後置修飾」の形に慣れると、3年生で習う「関係代名詞」の理解もはるかに容易になります。

それでは以下、特に注意すべき項目について述べていきます。

① 不定詞・動名詞

不定詞には3つの用法があります。それぞれの用法を文中での働きを考えながら理解し、各々が理解できたらまとめてみるのが大切です。英作文をすることで理解を深めていってください。

動名詞は文中での働きは不定詞の名詞的用法と基本的に同じです。しかし、どちらを使ってもいい場合もあれば、どちらか一方しか使えない場合もあります。この、不定詞の名詞的用法と動名詞との使い分け（入試超頻出！）はきちんとマスターしておくべきです。

不定詞・動名詞がしっかり身に付けば中2英語の最大のヤマ場のひとつを乗り越えたと言えます。

② 文型

文型はなかなか理解しにくい文法項目ですが、動詞を中心に5つの文型に分類できることを知ることもまず大切です。理解しにくい反面、一度理解してしまうと英文読解や英作文が格段に楽に進められるようになります。特に語順や第4文型と第3文型の書き換えが入試では大切です。

文型が理解しにくいと思っても、S(主語)、V(動詞)などの語順のルールだけはしっかり覚えてください。

③ 比較

この單元ではまず、主な形容詞や副詞の比較級・最上級を正確に覚え、簡単な例文を暗記してしまうことが重要です。例えば、比較級の表現でA is higher than B. 「AはBより高い」などを覚えます。ここで注意したい点は、日本語では「高い」という言葉自体は原級の時と変化しないことです(A is high. でも「Aは高い」となります)。このように日本語と英語の比較をしながら勉強することが大切です。その上で、「最も～な中のひとつ」の表現法や、いわゆる「富士山構文※」などの書き換えパターンを順番に確実なものにしていきましょう。

※ [最上級] Mt. Fuji is the highest mountain in Japan.

[比較級] Mt. Fuji is higher than any other mountain in Japan.

[原級] No other mountain in Japan is as high as Mt. Fuji.

④ 受動態

[be 動詞+過去分詞]という受動態の形をしっかりと覚えた上で、能動態と受動態との書き換えや、by 以外の前置詞を用いた受動態などを徹底的に繰り返して練習します。書き換えについては理屈よりもパターンとして覚えてしまうことが、即得点につながっていきます。中3の受験期までの反復演習のうちに自然と文法的な背景もだんだん見えてきます。加えてここで不規則変化動詞の過去分詞をまとめて覚えます。

⑤ 現在完了

意味はなかなか理解しにくいと思うので、まずは[have(has)+過去分詞]の形を疑問文・否定文などの場面でも使えるようにします。その上で、基本用法(継続・経験・完了・結果)をそれぞれの用法で一緒に使われるキーワード(since, ever, just など)に注意して識別できるようにします。用法を理解することで意味や使い方もわかってきます。頻出の例文も多いのでこちらも順に暗記していきましょう。

⑥ 分詞の形容詞的用法

この項目を理解するには、

- ① 「形容詞的用法」とは名詞を修飾しているということ(不定詞の形容詞的用法も同じ)
 - ② 英語では名詞を修飾する語句が2語以上になったら名詞の後ろに置く(後置修飾と言う)
- の2点をきちんと身につけることが不可欠です。これらがしっかり自分のものにできれば、中3英語のハイライトである関係代名詞も困難なくマスターできるはずです。修飾関係と語順が重要です。

なお、受動態・現在完了・分詞の形容詞的用法を学習する前提として、不規則動詞の活用(過去形・過去分詞)を正確に覚えていることが大切になります。穴埋めテストや暗記シートなどを自分で工夫して繰り返し練習し、必ず身に付けましょう。

★数学★

中2の2学期ともなると、中学生生活も後半に入り、部活動でも中心的な役割となる時期です。また、9月から11月は体育祭、文化祭と学校行事が目白押しの時期でもあります。したがって、どうしても目の前の行事に追われ毎日の予習・復習がおろそかになってしまいがちです。

しかし、皮肉なことに、中学校の数学では高校入試において最も出題頻度の高い「1次関数」「図形の証明」「円周角」「相似」といった最重要単元が登場します。例えば、1次関数は今後学んでいく2次関数や、高校数学で学習していく様々な関数を考える上での重要な基礎であり、さらに入試問題において関数は、平面・食うか図形との融合問題での頻出項目でもあります。

したがって家庭では、大事なこの時期の学習を無計画に過ごさないよう、細心の注意をしてください。『最低限のノルマとしての毎回の授業の復習、宿題だけは必ずやる。』これを合い言葉として、中学生生活の最大の難所とも言える中2の2学期を乗り越えていきましょう。忙しさにかまけて「中3になってから…」と考えてしまいがちな気持ちを抑えて、この中2の一番大変な時期を充実させていくべきです。

以下に、後期に扱う単元の学習ポイントを挙げますので、予習・復習の際の参考にしてください。

① 平行線と角、三角形の合同

幾何の学習は図形に関する比較的取りかかりやすい事柄（平行線と角）から始まります。まずは平行線や多角形の性質を確認し、次に一般的な三角形の合同や特別な三角形（二等辺三角形・正三角形・直角三角形）に関する証明に進みます。角度を求める問題では、平行線や多角形の性質を利用して、なぜそうなるかを1つずつ理解し、さらには補助線の引き方にも慣れましょう。また、証明では一般の三角形の合同条件（3つ）を完璧に暗記し、それから、直角三角形の合同条件（2つ）へと進みましょう。証明は勘や見かけではなく、定理・定義・性質といったことを根拠としてまとめていく作業なので、うろ覚えは禁物です。

② 四角形

まずは、平行四辺形の定義・性質・四角形が平行四辺形になるための条件をしっかりと理解し、覚えておいてください。その上で、ひし形や長方形はどのような平行四辺形なのかじっくり考えておきましょう。四角形相互の関係を、条件の追加による流れとしてまとめておくといよいでしょう。

また、等積変形も重要なテーマです。今後、関数との融合問題などで多用することになりますので、まずは作図の手順、そして利用の仕方と順にしっかりと身につけておいてください。

③ 円周角

入試では円周角と中心角の関係をからめて角度を求めるものが多く、しっかり学習すれば必ず得点源になる分野です。角を構成する3点の見極めに慣れていきましょう。発展事項である「接弦定理」もクラスによっては学習することになります。

④ 相似

高校入試の図形問題を考える基礎となるのが、合同・相似・三平方の定理という3つの単元です。これらは、図形の性質（問題）を分析していくために必要不可欠な道具なのです。たとえるならば、家を建てるのに必要な、のこぎり、のみ、カンナといった道具でしょうか。中2では前出の合同に続き、相似を学習します。どのようなときに2つの三角形が相似になるか？典型的な相似な三角形の構図の種類にはどのようなものがあるか？これらを頭と目で理解し、長さや角度を求める問題、相似な関係を証明する問題に利用していきます。相似を道具として使えるようになると、図形の問題が一段と面白く感じられるようになります。

★国語★

中学2年は、充実した時期であるとも、中だるみの時期とも言われます。それぞれの生徒の過ごし方によって、そのどちらにもなる、難しい時期といえるでしょう。

クラブ活動に熱中しているのはよいけれども勉強の方は大丈夫なのだろうか、と多少心配な方もいらっしゃるかもしれません。しかし、中2の時クラブ活動に熱心だった生徒の中には、中3で本格的に受験勉強を始めると、非常に成績を伸ばす方もいます。こうしたタイプの生徒は、クラブ活動で忙しいながらも、毎日学習時間を捻出して、必要最低限の学習内容はきちんと身につけておいた生徒です。したがって、この時期でも、学習習慣を優先させた規則正しい生活が、長いスパンで見た学力向上に役立つといえます。

駿台の後期では、説明的文章・文学的文章のほか、韻文（短歌・俳句・詩）、そして古文読解を学習してゆきます。説明的文章では、前期に引き続き文脈を正確にたどり、論理的に読解していく「精読」の方法論を学びます。読み終えるためだけに読む「流し読み」では「精読」はできませんから、当然のことながら、授業前の予習が必須となります。

予習としては、

- ① 「国語辞典」でことばを調べる。
- ② 文章・段落のテーマや筆者の意見（論説文）、そして心情や関係の分かるポイント（小説文）など、読解の「足場」だと思える部分に——線などのチェックを入れて読む。
- ③ 設問を解いてみて自分の読み取りを確認する。

の3段階を行います。大切なのは、①～③のような“作業をしながら読む”ということです。ただ漫然と読むだけでは「思考力」が働いてくれません。作業をすることによって、「精読」の足掛かりができるわけです。

文学的文章や、短歌・俳句・詩といった韻文では、「想像力」の養成ということもポイントになります。特に短歌・俳句・詩では、想像力を駆使しないと、“言葉は全部わかるけれど、内容がさっぱりわからない”という状態になりかねません。だから“作品を読んだら、それが脳裏に納得のいくイメージを結ぶまで想像してみる「イメージトレーニング」”が必要なのです。安易に解説を見たり、聞いたりするだけでは、韻文の「高い壁」を超えることなどまず不可能だ、と断言しておきます。

2年の後期では、口語文法の“山場”である助動詞を学びます。受験レベルとしては、例えば、A「きのう買ってきたリンゴがない。」とB「きのう買ってきたりんごはおいしくないね。」、C「今日はテレビを見ない。」、D「赤より白の花の数のほうが少ない。」などの「ない」を文法的に区別する「識別」とからめて出題される場合が多いのですが、こうした問題に対応できるだけの力をつけるには、文法を単なる「暗記」としてではなく、「(言語の基本的性質を把握する)方法」として捉える心構えが必要です(Aの「ない」は形容詞、Bは形式形容詞(補助形容詞)、Cは助動詞の「ない」、Dは形容詞「少ない」の一部)。また、文法は、1年からの積み重ねが大切ですから、不確かな部分は常に復習しておくことです。駿台の1・2年用テキスト《口語文法》には、「ポイント解説」の部分を入れてありますので、復習の時にも活用してください。

そして、入試で近年ますます重要度を増してきた「作文」についても、授業において課題作文を与えて対応いたします。予習段階でとにかく自分で書いてみるのが大切ですが、そのほか、どんな「課題」が与えられても、それについての自分の考えを持っておけるように、社会の出来事に興味を持つようにすることも大切です。自分に直接関係ないことでも、世の中の変化や新しい出来事には常にアンテナを張っておいてください。テレビのニュースで聞いた単語、新聞の見出しで大きく出ていた言葉を意識して理解するようにしておきましょう。

★理科★

2学期の学習内容の中心は、生物から「動物の分類」、物理から「電流・電圧・磁界」、地学は「気象」になります。

《生物》

「生物の分類」や「進化」について学んでいきます。多様な生き物たちの歩んできた進化の道や、相互関係などをビジュアルで覚えていきましょう。

《物理》

電気について学びます。

まずは電流と電圧の違いの理解、そして回路における電流・電圧・抵抗の関係へと進みます。直列・並列などはすでに小学校で習っているものですが、ここからは回路を構成する要素の相互関係を考えていくことになります。回路を単純な要素に分解して考えていくので、抽象度が高く数学的な発想が重要になってきます。入試の必須単元なので、分からなくなったら何度もオームの法則の基本を見直してください。電気と磁力との関係(磁界)も苦手とされがちな項目なので、基礎事項をしっかり身に付けてから問題を解きましょう。

《地学》

気象について学びます。

毎日の天気の変化の起こる仕組みと観測の仕方を学ぶのですが、空気の性質など化学的な理屈から考えて天気を理解していくことが重要です。名称の丸暗記に終わらず、その成り立ちからしっかり確認しておきましょう。

2学期は何かと行事が多く、勉強時間をとりにくくなる時期です。しかしその一方で、学習する内容はますます難しくなります。こうして定着が浅いままカリキュラムが進むと、理科が「分からない」「覚えられない」「苦手だ」という気持ちが強くなっていきます。しかし他の教科同様、入試においては、理科の2学期の内容は頻出です。これをおろそかにしていると、中3の2学期以降、受験勉強を本格的に始めた時に大変苦勞することになります。忙しさにかまけず、毎日コツコツと学習することが大切です。

公立高校においては理科・社会も他の3教科と同等の得点源です。バランスをよく得点すること目標とし、学校や部活が忙しいと思われませんが、周囲や状況に流されることなく日々努力に励みましょう。

★社会★

中2のこの時期になると、各中学の進度にかなりの開きが見られます。通常は、地理・歴史を中2の終わりにまで終え、中3から公民に入っていくわけですが、実際は、中3まで歴史を続けて学習する中学が多いようです。この場合、中3の途中から公民に入ることになり、受験までに公民の全分野が終了しないケースや、大急ぎで公民を終わらせようとするため、中3の2学期の試験範囲が教科書100ページ分以上ということもあります。これは極端な例としても、社会は駿台と学校の学習内容での不整合が生じやすい科目です。高校入試を見越して、駿台のカリキュラムを中心に勉強しましょう。

以下、社会では単元ごとのポイントではなく、日ごろの勉強で心がけてほしいことを述べます。

① ニュースや地図に親しもう

ふだんから国内外のできごとに関心を持つことが本物の学力を身につけることにつながります。テレビのニュースを毎日見るようにし、その中で気になった出来事の記事を新聞で読むようにすると、国語力も向上し一石二鳥です。また、知らない土地の出来事だったら、すぐに地図帳などを調べ、外国のことなら周囲にどんな国があるか、日本のことならどこの地域の話かを必ず確認しましょう。この段階ではあまり細かく覚えようとはせず、地図を眺める感覚で、肩の力を思い切り抜いて目の動くに身を任せましょう。また、事典なども調べてみてその土地の風景や人物が写真・図版でインプットしてみましょう。（地図帳にもそういうページはあるはずです）。社会の勉強は教科書の外に大きくはみ出してできるものです。ニュースの画面も含め、自分とは文化や伝統、考え方の異なる世界を肩肘張らず気ままにどんどん「発見」して欲しいと思います。

② 自分の生活という固定観念から抜け出せ

地理が苦手な人、歴史が苦手な人の中には、学習している事柄を自分の日常に当てはめて考えようとしがちの人が多く見受けられます。しかし地球上には、皆さんと同じ年齢の生徒が学校の授業中も「今日家に帰ったら食べ物は手に入っているかな」と常に心配している地域もあります。日本では考えられないことです。歴史に話を移すと、百年前の日本は「男女七歳にして席を同じくせず」と言って、男女共学なんてそれこそ考えられない環境でした。（今でも外国にはそういう所があります）また、江戸時代までの交通機関といえば、歩くか馬か船くらいしかありませんでしたし、応仁の乱の頃までは一日二食が普通でした。平安時代は方違えかたまがと言って…、挙げればきりがありません。とにかく、今の我々から見たら奇妙奇天烈だったり、信じがたいような生活をしている他民族もあつたり、いや、日本人同士だって歴史を遡ればそういう事例に事欠かないのです。

ただし、相手から見れば反対に私たちの生活の方がなんとオカシなものに思っているはずです。まったくお互い様なのです。そして、これらの違いをお互いに正しく理解し・認め合うことが異文化理解に繋がり、ひいては国際社会をスムーズに成り立たせる基となるのです。ここに社会を学ぶ最も重要な意義のひとつがあります。

自分（達）とは異なる文化・習俗・生活様式を、異なることを前提に学び、そこに生きる人たちを理解しようと努めること、これが、地理や歴史の学習内容を正しく理解し身につける一番の近道です。

だから、①で自分とは文化や伝統、考え方の異なる世界を肩肘張らずに気ままにどんどん「発見」して欲しいと述べたのです。

③ ノートまとめはほどほどに

教科書やノートを試験前に時間をかけてとてもきれいにまとめ直す人が見受けられますが、こういう人はまとめること自体に気をとられてしまっている場合が多く、えてしてまとめた内容が肝心の頭には入っていないものです。したがって、テストの出来も散々ということが多いようです。生徒自身もまとめノート作りに時間がかかったのを「長時間勉強したのにぜんぜん覚えられなかった。自分は暗記力がない…」と思い込んでしまうケースがよく見られます。学校では先生によっては「まとめノート」を提出させる場合もあるのでまとめノート作りは必要ですが、あまりまとめることにこだわらず、頭に入れること、考えることを最優先としてください。「ノートをまとめる作業」は、「内容を整理して頭に入れる」という「目的」のための「手段」です。ノートを熱心にまとめたが、まるで頭に残っていないなどという本末転倒な事態にならないよう、注意してください。